

■菅原精造 若くしてパリに渡り、フランスの漆芸振興に寄与し続けて多大の評価を受けるも、日本では知られずに終る漆職人。

すがわらせいぞう

秩父事件・・1884＝ 山形県飽海郡酒田町寺町で、平岡与吉、なかの三男に生まれる。兄二人に、姉二人がいた。

帝国大学始・1886＝ 2歳：弟の与四郎が誕生。のちに、妹二人誕生。

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

郡司千島探検1893＝ 9歳：このころ、酒田は米商売で繁栄著しく、町の名士や豪商たちが毎晩のように遊郭で騒いでいたが、宮中を模した遊びが問題になって大量検挙される(相馬屋事件)。その時、事前に京都に衣裳道具を調達しに行ったのが、指物と骨董を扱う川瀬屋に婿養子に入っていた金沢出身の川瀬宇吉であったが、

日清戦争始・1894＝10歳：実父が死去したため、円山卯吉に戻って、川瀬屋をフル稼働させるなか、\_実父に従って、川瀬屋で働きながら、木工や漆芸を学んでいく(のちに、実弟と四郎も川瀬屋の仏壇彫刻師になっている)。菅原甚右工門の養子になった直後に、庄内大地震が発生、その後の火災で街の半分が焼失するという大災害になる。この時、末妹を背負って逃げて助かるが、養父甚右工門は死去してしまい、菅原家の戸主になる。

ピアノ/国産化・1900＝16歳：後年、菅原が渡仏したのは、この年開催されたパリ万博に出品された漆製品の修理のためとされてきたというのは間違いであったが、のちに協業することになるアイルランド系イギリス人アイリーン・グレイは、この万博を訪れて、パリに憧れるようになった。

田中正造直訴1901＝17歳：実母なかが死去。僧になっていた実兄平岡廓仁に保証人の一人になって貰い、駒込の寺に寄宿、\_漆芸の道に進むべく、東京美術学校の漆工科撰科に入学、

教科書疑獄・1902＝18歳：もう一人の保証人になって貰った漆器職の師森川奇秀の浅草の家に居候して、漆工科撰科の二年生になり、\_日本漆工会のコンクールに「蝋色塗円盆」を出品して受賞。

日比谷公園・1903＝19歳：漆工科撰科の三年生に。酒田の円山卯吉が、川瀬屋を発展させる形で、移民が増えつつあった北海道を市場とする「円山漆器木工場」を設立、実父与吉はその支配人になっている。

日露戦争始・1904＝20歳：おそらく学費納入でせず、留年、

日露戦争終・1905＝21歳：日露戦争からの凱旋観艦式が横浜港で華々しく開催されてまもなく、パリ万博を頂点とする日本の工芸ブームを背景に、\*パリで工房を経営するガイヤールから、東京美術学校に、蒔絵漆工家と彫刻家を招きたいとの依頼があり、派遣されることになった辻村延太郎(松華)に従い、中退して、牙木彫刻家浅井寛哉のほか、画家藤島武二らとともに、横浜から出航し、パリに到着。辻村によれば、快活無邪気な青年であった。

満鉄発足・・1906＝22歳：\_パリのガイヤール工房で仕事に着手、辻村はなじまず帰国してしまうも、残って活動すると決意、時を同じくして、アイリーン・グレイが工芸の道を志してロンドンからパリに戻っており、

韓国反日暴動1907＝23歳：このころ、\_漆に興味を持ったグレイと運命的出会い、漆芸を教えるようになる。

アヲキ`創刊・1908＝24歳：その後、日本人芸家が続々とガイヤール工房に來ただけでなく、洋画家も多数來仏、先輩として彼らの面倒を見始め、"在仏日本人の父"になっていく。

韓国併合・・1910＝26歳：親友になった筧が客死して悲嘆にくれるなか、パリで大洪水が起こり、ガイヤール工房も被災したことから、\_グレイの漆工房に移って協業し始めるや、芸術的活動が開花、

大逆事件判決1911＝27歳：

明治天皇没・1912＝28歳：日本では、帰国しない自分に代わって、弟の与四郎が菅原家へ養子に入り、姉よしえが死去。\_真鍮制作ではすでに知られていたジャン・デュナンが訪ねて来て、集中的に漆のレッスンをする。

大正政変・・1913＝29歳：この年来仏した藤田嗣治とは生涯親交。\_サロンに初出品したグレイと共同制作「夜の魔術師」が評判になり、続く、グレイとの共作「運命」は、著名な美術品コレクターのジャック・ドゥセが購入するという成果、

第一次大戦始1914＝30歳：かつての師森川奇秀に依頼し、実父にも助けを乞うなど、生漆の入手に苦労するなか、第一次世界大戦が勃発、ドイツがフランスに宣戦、多くの在仏日本人がパリを脱出、

21ヶ条要求・1915＝31歳：なお留まるも、ついに、グレイと一緒にロンドンへ脱出し、工房を開くが、

民本主義・・1916＝32歳：故郷では、実父与吉が死去。イギリスではニーズも無く、

ロシア革命・1917＝33歳：早くも、グレイと一緒にパリに戻って、グレイ工房を再開、

ベルサイユ条約・1919＝35歳：\_ドゥセの発注で、ロタ通りのアパルトマン(マダム・マシュ・レヴィ宅)の大プロジェクトが始まる。

大暴落・・・1920＝36歳：弟の与四郎が死去するという不幸が続く。

原敬首相暗殺1921＝37歳：このころ、通っていたカフェで知り合った少女マルセルが、工房で働くようになる。

水平社結成・1922＝38歳：フォーブル・サントノーレに開店する一方で、\_グレイは、建築家を志向するようになる。

関東大震災・1923＝39歳：この年、酒田の海晏寺に、円山工場の門人たちが恩師に報いる「円山卯吉翁寿碑」を建立、すでに故人になっていた実父与吉と実弟与四郎の名とともに、漆工精造の名が刻まれている。

護憲三派圧勝1924＝40歳：かつての師円山卯吉が死去。アパルトマンが完成し、マルセルとの間に、娘のジャクリーヌが誕生して、治安維持法・1925＝41歳：マルセルと結婚するなど、幸せの絶頂。\_一方、デュナンは、パリでのアール・デコ博の一角に黒漆を基調にした室内装飾で高い評価を得るまでになっている。

金融恐慌・・1927＝43歳：デュナンは、大西洋航路にデビューした豪華客船の遊戯室をデザイン。\_グレイから工房を譲られて独立、{ルビュー・モデルン}誌に記事が掲載される。

共産党事件・1928＝44歳：このころ、5年前に來仏していた\_浜中勝にもけしかけて漆芸を伝授、

世界恐慌・・1929＝45歳：パリ市内で「仏蘭西日本美術家協会展」で、藤田ら画家と交流。\_さらに、家具も含む建築作品「E-1027」を完成させて建築家に転じたグレイからアトリエを譲り受けて、菅原工房を開く。グレイは、近年、「E-1027」の作者と認められ、コルビュジェをも先駆するモダンデザインの建築家として名が高まっている。

海軍軍縮条約1930＝46歳：デュナンは、さらに豪華な客船「アトランティック号」の船内装飾も担当する。不況で全く売れなくなったフォーブル・サントノーレの店を閉めてしまった\*グレイとの縁も無くなり、自らの先行きも不安になるなか、\_著名なユダヤ人富豪ロスチャイルド家の一人アンリ男爵から声がかかったのを幸いに、単身、男爵が牛乳の栄養研究をしていた別荘ヴォー・ド・セルネイ修道院へ赴き、やがて妻子と合流。\_

満州事変・・1931＝47歳：画家の藤田嗣治と並んで、フランスで、\_自分の腕一本で飯の食える漆芸家になっていた浜中は、大工房を率いるデュナンとともに、史上最高と言われる豪華客船「ノルマンディー号」の船内装飾も担当するなど、自ら教えて來た漆芸が、フランス工芸界に確固たる地位を築くなか、自らは、ロスチャイルド家の専属工芸家として働き、時には、イギリスにも出張して、制作・修理。

国際連盟脱退1933＝49歳：「アトランティック号」は、航海中の火災であっけなく焼失、

帝人疑獄事件1934＝50歳：\_さすがのロスチャイルド家も株の暴落で修道院を閉めざるを得なくなるも、引き続き働いてほしいと、一家で、パリ郊外シャンティイの、アンリ男爵フェルム・デ・ゼーグル(鷲の農場)の屋敷に入る。

芥川直木賞始1935＝51歳：完成した「ノルマンディー号」が、ニューヨークへ処女航海して大きな話題になっている。

二二六事件・1936＝52歳：かつて世話になった実兄の僧平岡廓仁が死去。このころ、ロスチャイルド邸で再会した浜中勝に、「庭師をしている」と謙遜。この間、\_肝臓ががんが進行し、

日中戦争始・1937＝53歳：家族と最後の記念写真を撮って、まもなく、\_没し、フェルム・デ・ゼーグル近くの墓地に葬られた。かつてパリで世話したうちの一人、木内輝がマルセル夫人に手紙し、その他の関係者との尽力で「日本の新聞に卦報が載った」といい、藤田嗣治は「菅原精造を師と仰いでいた」と言い遺している。作品は、娘のジャクリーヌが引き継いでいるが、アフリカの彫刻からインスピレーションを得た「女性の頭部彫像」は、単なる塗師を超えた作品になっている。

熱田充克「パリの漆職人 菅原精造」、